

教科	家庭		科目	家庭基礎	単位数	2	学年・コース	2年 全
教科書	新家庭基礎『パートナーシップで作る未来』実教出版			担当者	江波戸純子・古川なおみ			
概要・ねらい	これからの日本を担う若者として、自分の立場とその役割を考えさせる。また、日常生活において、衣生活・食生活・家庭生活・将来の保育・高齢社会での様々な課題について学ぶことで、実際の生活と比較しながら、日々の生活課題を自ら解決し、自立した生活の向上ができるようにする。							
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準				
	一学期	6	第1編 人とかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族	現在・将来の自分の立場を客観的に理解し、役割を考え実践に生かすことができたか。				
		4	第2章 子どもとかかわる	将来の家族を考え、家庭を持つことの必要性を知り、子どもを育てることの大切さ、高齢者との接し方等を学び、将来の計画を立てることができたか。 (中間考査)				
		10	第2編 生活をつくる 第2章 衣生活をつくる	エプロン制作をすることで、衣服の構成の仕組みを理解する。また、被服制作に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得することができたか。 (作品「エプロン」提出)				
二学期	2	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる 1 私たちの食生活	毎日当之无愧に食べている食生活の必要性を理解し、日々の食生活の改善を行うことができたか。					
	14	2 栄養と食品のかかわり	食物の持つ栄養素と病気との関係を理解し、バランスの良い食生活を送ることができたか。					
	4	3 食品の選び方と安全	食品の流通経路を知り、食品の鑑別や購入できる能力が備わったか。また、食中毒が起こらないように、調理・保存ができたか。					
	6	4 食事の計画と調理 ・和食の朝食 ・洋食の昼食 ・郷土料理	調理をする目的を理解し、調理・献立作成に関する知識・技術を習得し、実生活において、調理をすることができたか。 和・洋の献立、朝・昼・夜の献立を学び、多くの食材を使用することで、実生活の多様な食生活について考えられたか。 修学旅行先の郷土料理を理解し、調理をすることができたか。 (期末考査)					
三学期	2	第3編 消費行動を考える 第1章 消費行動を考える 1 消費行動と意思決定	消費者として、主体的に取り組むことができたか。					
	2	2 社会の変化と消費生活	現代の消費社会を理解できたか。					
	2	3 消費者の権利と責任 4 持続可能な社会環境	消費者としてのやるべきことや責任を理解できたか。 消費行動が環境に及ぼす影響について理解できたか。					
4	第2章 経済的に自立する 1 経済の仕組みを知る	現代の経済生活について、理解できたか。						
2	2 ライフステージと経済計画	将来の経済活動について、主体的に計画できたか。 (学年末考査)						
履修上の注意								
授業は、ワークノートを使用し、板書を記入していきます。そのワークノートは大切に保管し、定期考査前確認の際にきちんと提出してください。また、教科書の単元にそってありますので、教科書もきちんと用意して下さい。								
評価の観点の趣旨と評価方法								
各観点	関心・意欲・態度		技能・表現		知識・理解		思考・判断	
評価の観点の趣旨	現在の生活全般について関心を持ち、意欲的により良い生活を目指して検討しようと取り組む姿勢がみられる。		生活全般について必要な基礎的・基本的な技術が身につけている。		日常生活に必要な知識が身につけている。		日々の生活におけるそれぞれの分野の基礎的・基本的知識を理解し、現在の生活と比較した適切な方法を選択できる。	
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 ワークノートの提出状況		定期考査 実技課題の提出 実習への取り組む姿勢		定期考査 作品・実習の完成		定期考査 授業への取り組む姿勢	